

シメ (アトリ科) 全長 19センチ

初雪が降る 12月上旬頃に群れで飛来し、冬の訪れを告げる小鳥である。

この頃は雄物川や玉川の川べりに立つと北風が一段と強く吹き付け、厳しい寒さで野鳥の姿も殆ど見えなくなります。

じっとこらえて待っていると、雲間から明るい日差しが林の中に刺し込み、穏やかな風になるとシメの群れがやってきました。ずんぐりとした体形、太いくちバシ、喉にはよだれ掛けのような黒い模様。どことなく愛嬌のある小鳥です。



丸々とした体形が可愛い。

枝から枝へせわしなく移動を繰り返しながら、枯草の積もる地面に一齐に降り立った。落葉広葉樹林の林で種子を探し出しているのでしょう。

10羽程が夢中で葉っぱの下に隠れる餌を探していたが、なにかに驚いたように再び一齐に飛び立って行った。小鳥たちは猛禽類などの天敵に襲われない様、常に周囲に注意を払いながら餌を探しているのです。



喉には黒い模様があり、よだれ掛けに似ている。



雪の積もっていない場所で餌探し。

冬期間、群れで見られる小鳥たちには他にもエナガやアトリ、シジュウカラなどがいることから、我々も寒さに負けないで出かけて見ましょう。



アップで見ると、鋭い目つきでした。



太いクチバシは、固い実も食べることが出来るでしょう。